

スリナム月間情勢報告
(2025年1月)

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

1月のスリナムの内政、経済、外交月間報告は以下の通り。

1 内政

●(11日報道)現時点で3名のヒトメタニューモウイルス(HMPV)感染者を記録。

2 経済

●(2日報道)スリナム石油公社(Staatsolie)による2024年の連結売上高は、前年とほぼ横ばいの7.2億米ドルを記録。また、同社による同年のサラマッカ地区での石油生産量は、前年比13万バレル増となる約640万バレルを記録。

●(8日政府発表)国内の中小企業を支援するべく、ラゴバーシング財務・計画相とウステルボス駐スリナム蘭大使は、国家開発銀行(NOBB)が管理する生産信用基金(PKF)への500万ユーロの拠出に関する契約に署名。

●(9日報道)トタルエナジーズ社は、本年5月よりスリナム沖合の64鉱区で石油・ガスの掘削を開始すると発表。

●(20日報道)中国企業BOMESC Offshore Engineering社は、SBM Offshore社からスリナム初の浮体式生産・貯蔵・積出設備(FPSO)のトップサイドの設計・資材調達・建設を受注。

3 外交

●(2日報道)ポータッセ元大統領の死去を受け、Lin Ji 駐スリナム中国大使は弔問に記帳し、哀悼の意を表明。

●(16日、政府発表)サントキ大統領はスリナムを訪問中のモトリー・バルバドス首相と会談を実施し、スリナムで本年実施予定の総選挙や石油開発及び二国間協力の強化等に関して協議。

●(17日政府発表)モトリー・バルバドス首相は、両国間の関係深化への貢献、カリコムにおけるリーダーシップ及びカリブ地域の発展への献身が称えられ、スリナムの最高栄誉の一つであるパーム名誉大綬章を受章。